

バレーボール競技大会中の避難行動マニュアル

宮城県高体連バレーボール専門部

東北地方太平洋沖地震に余震に対し、参加する生徒の安全に万全を期するために下記の要領に従い、行動するように指導すること。

【大会役員並びに引率者の責務】

- 1 大会事務局は、各会場に会場責任者を決定し、統括、指示、必要により関係機関、地域、保護者等との連絡などを行う。
- 2 会場責任者は、大会会場の立地条件、屋根や建物の構造等を把握し、津波、土砂崩れや落下物等の危険を予測し、全参加者に理解させる。
避難場所や避難経路等を確認し、あらかじめ全参加者に理解させること。また、避難経路の妨げになると思われるものは撤去しておく。
ギャラリーは、ガラス等の危険やはしごしかない場合もあるので、上げないことが望ましい。試合に関係ない選手や応援者はなるべく外で待機させる。もしフロアーに十分なスペースがある場合は、応援スペースを確保する。
- 3 各学校の引率者は、それぞれの生徒の避難誘導を行うとともに、人員確認を速やかに行う。
携帯電話番号、メールアドレスや自宅の電話番号一覧を準備しておく。

【地震発生時に行う指示と行動】

- 1 会場地へ移動中に地震発生
 - ア 引率者は、参加者の状況把握を速やかに行う。引率者がいない場合は、主将を中心に生徒自身で行い、引率者に報告するか、会場にいる大会関係者に報告する。
 - イ 看板、屋根瓦、窓ガラス等の落下物に対して、バック等で身を守る。
 - ウ 倒れる恐れのある建物やブロック塀等に近寄らない。
 - エ 地震により怪我等をした場合には、近隣の商店や民家に助けを求める。(交通事故等も同様)
- 2 試合中に地震発生
 - ①生徒の行動の仕方及び注意事項
 - ア 発生時の初期行動
 - ・騒がない。 ・勝手に行動しない。 ・会場責任者の指示を静かに聞く。
 - ・窓や壁から離れる。 ・落下物に注意し頭部を守る。
 - イ 避難行動
 - ・落下物の下を避けて中央付近に集合させ、揺れが治まるまで身を低くして待つようにする。
 - ・パニックを起こさないように指示を聞く。 ・荷物を取りに行かない。
 - ・上履きのまま避難する。 ・決められた避難場所に集合し、点呼に協力する。

②引率者の行動と指示

- ア 引率者の指示は大声で簡潔に行う。また、パニックを起こさないよう、心の安定を図るような言葉かけを行う。
- イ 引率者は冷静に生徒等の状況を把握し必要な指示、注意を与える。避難口は1か所以上確保する。動揺している生徒等や負傷者、障害者に対しては、特に配慮し、助け合いながら避難できるようにする。
- ウ 避難場所へ到着したら直ちに人員点呼を行い、会場責任者に報告する。応援者についても安全確認を行う。
- エ 火災、津波等二次的災害の恐れが出た場合は、地域防災本部の指示により生徒等を二次避難場所に誘導する。
- オ 初期行動の指示例
「落ち着いて、体育館の中央に」、「外へ出るな」、「窓から離れて」、「大丈夫、静かに聞きなさい」
- カ 避難行動の指示例
「先生についてきなさい」、「走らない、押さない」、「非常口から出なさい」

③会場責任者の行動と指示

- ア 会場責任者は、速やかに試合を止め、状況把握をする。問題がなければ、試合再開を指示する。避難が必要な場合はすぐに避難の指示をする。
- イ 避難場所での本部を設置し、引率責任者からの報告を求める。報告結果を、専門委員長に報告し、指示を受ける。電話等が通じない場合は、会場責任者、引率責任者の判断で、安全に生徒を帰宅させるようにする。安全が確保できない場合は、体育館等に避難させる。

④審判員の行動と指示

審判員は、地震に気が付いた場合は、試合を止め状況把握をする。問題がなければ、主審はキャプテンに地震のための中断をしたことを説明する。副審は記録係にやり直しであることを説明し、点数を確認する。避難が必要な場合は、審判員の判断で避難させることもある。

⑤応援者の行動と指示

避難経路を確認し、落ち着いて行動する。応援に来ている関係者の安全を確認し、引率責任者に報告する。また、子どもやお年寄り等の誘導避難の補助を行う。引率責任者の依頼により生徒を自宅に送迎の協力をする。

⑥ 報告 引率責任者→会場責任者→県専門委員長→県専門部部長

【放射能に関する避難について】

基本的に放射線量が急激に上昇した場合は、屋内に退避させる。会場責任者は、会場校に協力してもらい、情報を収集する。会場校長と相談し屋内退避を継続するか、帰宅方法を検討する。

(参考文献：教職員のための防災事典（日本体育・学校健康センター）